

『源氏物語』へ一重なる、須磨の「物語」一

2024年6月22日（土）～ 8月25日（日）

紫式部は、『源氏物語』を「須磨」巻から書き始めたという伝承があります。失意の光源氏が訪れ、物語を大きく転換させていく舞台となった須磨。その筋運びの背景には、紫式部より前の時代を生きた菅原道真・在原行平が主人公の、2つの「物語」がありました。これらの「物語」が『源氏物語』に与えた影響を、地誌や錦絵などを手掛かりにしながら、読み解いていきます。



須磨寺参詣曼陀羅
福祥寺（須磨寺）蔵

[出品資料]

指定	資料名（所蔵番号または所蔵）	作者	材質技法	員数	時代
	須磨寺参詣曼陀羅 福祥寺（須磨寺）蔵		紙本著色 掛幅装	1幅	桃山時代、16世紀後半から17世紀初頭
	播州須磨寺若木桜図 当館蔵	月岡 芳年	紙本木版色摺	3枚続	明治3年（1870）